

平成29年度 第1回大樹町総合教育会議 議事録

1 日時 平成29年7月5日(水) 午後3時55分から午後5時15分

2 場所 大樹町役場4階 委員会室

3 出席者

(構成員) 大樹町長 酒森 正人  
教育委員会  
教育長 板谷 裕康  
教育長職務代理者 石山 新一  
委員 丹後 恵  
委員 山下 博

(事務局)

布目副町長、松木総務課長、角倉学校教育課長、井上社会教育課長、和田学校教育課主幹、藤原総務課主幹、佐藤総務課主査

(傍聴者) なし

4 欠席者 鈴木委員

5 会議内容

午後3時55分 開会

事務局

みなさん、お集まりいただきましてありがとうございます。ご案内の時刻より5分ほど早いのですが、ただいまから平成29年度第1回目の大樹町総合教育会議を開催したいと思います。予めご連絡でございます。委員の鈴木委員、所用により本日欠席という事でございますので、ご報告いたします。開催に先立ちまして、大樹町長酒森正人よりご挨拶を申し上げます。

○町長

大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。平成29年度の第1回大樹町総合教育会議という事でこれから開催をさせていただきたいと思っております。各委員はそれぞれのお立場で町政の、そして教育の推進に大きなお力を頂いている事、この場から、そして私からも御礼を申し上げたいと思っております。平成27年度に教育委員会制度が改正・変更になりまして、この教育会議、平成27年度からの開催という事でありまして、平成27年度には、子どもの健

康についてこの場で意見交換させていただいたという記憶がございます。また、去年は小中高連携、キャリア教育の関係でこの教育会議を開催させていただき、総合振興局の局長、そして十勝教育局の教育局長にも同席していただき、意見交換をしたという事でもあります。平成29年度第一回総合教育会議という事でもあります。今回、コミュニティスクールの内容について情報を共有しながら意見交換をさせていただければなという風に思っているところでもあります。限られた時間ではありますが忌憚のない意見を交換し、そしてこの会議が、大樹町の教育にとって大きな礎になるように、各委員とともに意を注いでまいりたいという風に思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ○事務局

これより後は、町長の進行により議事を進行させていただきます。

#### ○町長

それでは、議事録の署名については石山委員と山下委員にお願いしたいと思いますので後ほど作成した議事録について署名をお願いしたいと思います。

それでは早速、協議事項の方に入ってまいりたいと思います。本日の議題として、コミュニティスクールについてという事でもあります。最初に資料1の説明も含めて、板谷教育長の方から説明をお願いいたします。

#### ○教育長

コミュニティスクール、すごく今、光を浴びています。これ、6月15日の道通の記事なんですけど、こんな見出しでした。4月1日現在、164校で前年比101校増、いかにこう、1年間で増えたかという事が、どんどん増えています。資料3つ用意させていただいて資料3、これは6月21日に十勝教育局の教育長部会があってその資料でございます。道教委もかなり本腰を入れています。その大きな背景は、資料2を1枚めくって下さい。2ページの下、トピックスと書いていますが、ここに学校運営協議会の設置が教育委員会の努力義務になりました、これがいつからかという、今年の4月1日という事で、これがかなり大きいんです。ただ、我々の仕事というのは義務感でやる仕事ほどむなしい、と言われておりますので、「ねばならない」ではなく「どうしてこれが必要なのか」というあたりを今日、町長が言ったように情報交換しながら共有化を図ればありがたいという事で貴重なお時間いただきました。資料1をご覧ください。教育振興という道内の教育雑誌からもってきました。書いた先生は安藤修平さんという、いま80歳くらいになられているんですが、札幌附属中学校の国語の先生でそのあと静修短大の教授やって、珍しく文部省の視学官まで務められた方です。今、AI、人工知能によって、これからどんどん職業が奪われてしまうという情報がありますが、その中で、今どきの子ども A 群、その特徴が1段目の左側に書いています。不十分ながらも言語で試行し表現できる。つまり論理的思考も可能である。耐性もまずまずで、人と一緒に話し合ったり共同で学習できる。これを目指して今一生懸

命頑張っているんですが、そうではない B 群もたくさんいます。B 群の特徴は2段目の右側です。1から5という数字が出ていますが、イメージ優先・見かけが大事・言葉は実感されなければ認識されにくい・論理的思考は十分にできない、短絡的に考えてしまう。耐性は極めて乏しい、我慢する事はすごく苦手。人との関わりが不得手。これから生き残れるのは、実は A 群ではなく B 群だと。どうしてかという、人工知能というのは論理的な思考が素晴らしいのだと。すごいスピードで情報を処理できる。だから、意外に感性だとかイメージという非論理的なものは人間のすごく長所というのか、だから四角に出ている、こういう実体験に基づいた推論力だとか、深くイメージする力をつけていかなければならないのではないかという提起をしてくれています。

現状把握しなければいけないので、北海道の学力体力の問題を考えるという事で問題点が出ています。鉤括弧の中ですが、北海道の子ども達は基礎的な学習内容が身につけていない。大樹の場合、基礎問題はかなり皆さんの努力で頑張っていますが、という所です。次に、テレビやゲームの時間が長い。学校からもらった資料によると、三時間以上見ている子どもも22.7%とか結構な割合でした。あと、1日の家庭学習の時間が少ない。まあ頑張っている子もいるんだけど1時間未満とか30分もしてないという子が結構いるとの事です。基礎学力のみならず基本的な生活習慣にも問題をかかえているとのことです。1段目の左側、学力学習状況調査の結果が良い県は、たとえば秋田県とか福井県は生活習慣も良好であり体力運動能力・運動習慣調査も良い、だから学力と生活習慣と体力とは密接な関係があるという部分を、しっかりお母さん方にも理解していただいて、私はPTAには寝る子は育つと、ぐっすり寝るためには昼は一生懸命使って、体使わないとダメなんだよと言ってましたが、なかなかそうならない現状があります。2段目の4行目ですが、学校、保護者、地域住民および行政が、ここに行政が入っていますが、ここがすごく大事なのですが、課題や危機意識を共有し、学力向上に向けた取り組みをすることが大事だという事です。下の方には基礎学力は人生のパスポートですよとか、質の高い授業、わかる喜びできる喜び、子どもの生活習慣の改善、丹後さんもいますけど、読書運動の充実、全てを循環させるこの好循環が子ども達にとって学力・体力・意志力を養っていくんですよと今一度確認して実施できたら良いかなと思います。先日まで、新しい教科、道徳の教科書が展示されてました。いよいよ来年度から新学習指導要領で、その目玉として、道徳と外国語です。いままで5・6年生まで外国語活動だったんですが、5・6年は教科になって3・4年から外国語活動になると。ただ、今までの先生は英語の免許持ってません。それでどうしたら良いのかというのがこの内容です。それで身に着けなければいけない力が3つ出ています。2段目に太い字で書いています。知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力、次が一番大事だと思いますが学びに向かう力、人間性、この3つをバランスよく身につけていかないといけないという事です。めくってください。最後、今日の本題、コミュニティスクールと小中一貫教育。先程、町長のお話で、28年度は小中高一貫キャリア教育について会議をやったんですよ。本当に時宜を得た取り組みだと思っています。北海道の先進地区、北広島の西部小学校・中学校がやった実践です。9年間の見通しを持ってという事がすごく大事だと思います。どうい

う15歳の姿を想像するのか、大樹町の場合だと小中高やっていますから18歳になった時どういう力を身につけていけばよいのか、そういうゴールをしっかりと示しながら小中高で接続よくやっっていこうという事、あとは終わりになりますけども、目標を共有しようという事と、辛口の友人になろうと。地域のうるさいオジサンオバサンがいなくなった、人と人とをつなごうという事で北広島は頑張っているという事です。それで、資料3めくってもらおうとやっぱり一番大事なものは、設置の目的なんだと。設置する事が目的ではなく、なぜ設置しなければいけないかという事をしっかりと議論して共通理解を図ったらよいとの事でした。特に地域の人・物・事、地域の教育資源というのは土地の人・地元の人が良く知っています。そういうコーディネーターからいろいろつないでいただくことが大事だと思います。地元の人土地の人で、教員は風の人です。転勤族です。それをうまく絡まって風土ができるのかなと思います。サイクルが5までありますが、まずは知ると。その後考えて実現する、やった後振り返ると。PDCA、これをうまくやっていきましよう。次ですが、CS というのはコミュニティスクールの事ですが、その導入の要因は様々な問題があります。一番大きかったのは大津のいじめです。それで、スピーディに迅速にやらなければいけないとの事で首長が総合教育会議を開いて、行政が一体となってという事でできたとの事です。次ページ、⑤と書いてありますが、あまり目標だけ高くても、ギャップで疲れちゃうと書いてあります。まず話し合っって半歩前進というのがすごく大事だと言われています。貴重な時間いただきました、この後資料②について、角倉課長の方から説明します。よろしくお願いします。

#### ○角倉学校教育課長

それでは、私の方から座ったままで。それでは参考資料の2から、コミュニティスクールの導入までの概要について、簡単に説明させていただきます。最初に今年の4月1日現在の全国・全道・管内の導入状況、資料にはありませんがお話したいと思います。全国では3600校11道県367市町村でコミュニティスクールに取り組んでおります。道内になると36市町村165校が取り組んでおります。十勝管内においては、2町8校。これは浦幌と上士幌でそれぞれの小中学校4校ずつでございます。4月以降になりまして、足寄町で螺湾小学校のコミュニティスクールがはじまりました。それから、南十勝の中札内のコミュニティスクールが、小中併せて3校ありまして、協議会は中学校区で1つですが、5月16日に第一回の運営協議会を開催したと伺っております。現在では十勝管内4町村という事になります。また、周辺の十勝管内の町村も資料を収集したり、検討開始とか動きを見せている状況でございます。それでは配布されている参考資料2から説明いたします。一緒に、大樹町の教育大綱が配布されているかと思いますが、その中の柱1「生涯にわたり育てる」ということで(1)学校教育(2)地域全体で育てる体制づくり、学校・家庭・地域が協働して地域全体で子ども達を守り育てる体制づくりを推進しますという事で、H27年7月に最初に開催した総合会議において、この大綱を決定しておりますが、この地域全体で育てる体制づくりというのが、この実現のためのツールというか道具として、コミュニティスクールの導入というのが活用できるものと考えております。それでは、内容に入って

いきます。参考資料2の1ページ、コミュニティスクールとはという事で、地域住民等が学校運営に参画し、学校を応援する仕組みです。3点の事、参画・応援・仕組みという風に書いてございます。その下に、それぞれの123の説明が書いてあります。参画とは話し合い・熟議により子ども達の課題や目標を共有し、主体的に学校の教育活動に参加し、アイデア・計画などをだします。応援するというのは教育を学校だけに任せず、学校と地域が一体になり子ども達を育てると。仕組みについては地域住民や教職員の代表などを委員とする学校運営協議会を作ります。参画・応援・仕組みについての説明です。その下に学校運営協議会の機能という事で3点書いてあります。必須事項としては校長が作成する学校運営の基本方針を承認する事。これは必須の機能でございます。その下の2つは任意的機能ということで、学校運営について教育委員会又は校長に意見を述べるができること、次に教職員の任用について教育委員会に意見を述べることの3点の機能を挙げております。

その下に、コミュニティスクール導入の3つのステップが書いてあります。ステップ1として教育委員会の規則として学校運営協議会規則を作成する事。先程、教育長が言ったように4月1日以降、地方教育行政の法律で努力義務が規定されたところです。ステップ2として組織と体制づくりということで、教育委員会が運営委員の任命をする必要があります。2番目に既存組織の仕組みをベースにするなど体制を構築する必要があります。3番目に学校運営協議会に部会組織を作るなど、動かせる組織にするよう書いてあります。次にステップ3ですが熟議、話し合いにより目標を共有します。学校と地域、保護者や地域住民との熟議と書いてあります。この熟議は大事だと言われており、十分な話し合いにより子育てのビジョンや課題を共有し、活動の方向性を決めるという事が必要となってきます。2ページ以降はステップ1～3についての具体的な内容の解説が書いてあります。2ページは学校運営協議会規則の項目という事で、教育委員会が定めるべき学校運営協議会の規則は、これらの要素が入っていないと事の説明が書いてあります。3ページにおいては組織と体制づくりという事でございます。学校運営委員会の委員の基本的な構成という事でいくつかの例が書かれております。自治会長とか PTA 会長、大学教授、青年会議所代表。大樹町では必ずしも当てはまらないものも入っております。おやじの会代表とか同窓会代表、民生委員代表、接続する中学校校長、学校の職員、地域のコーディネーターなどという事で地域のそれぞれの立場の人達が、意見を言える人達を委員として任命して、多彩な意見を吸収できるようにという事でございます。その下には、既存の取組など十分に活用すると円滑に学校運営協議会を作ることができるという事で、作り方1として学校地域支援本部、これは社会教育課の方に事務局があるんですが、小中学校の学校教育を支えるために地域ボランティアとか地域の指導者等、学校をつないで授業の中に応援団を作って送り込んでいく。また、現在行われているのは「子どもみらい塾」とか、土曜課外事業たいきッズの事業とか社会教育課で行っている、支援本部の事業として行っているものもありますが、学校支援地域本部の組織を学校運営協議会の方に移行していくという事をすると、任命しやすくなるのではないかという提案です。また作り方2、学校評議員です。学校評議員は小学校中学校それぞれにお願いしていて、教育長が任命しておりますが、それ

それぞれの学校運営に意見を頂いており、現在ある組織でございます。この評議員も学校運営協議会の方で参加していくことによって、学校評議員制度を廃止しても良いと。逆に運営協議会に入ってもらおうという考え方が書いてあります。作り方3については、学校関係者評価委員を運営協議会へ任命しなすと。大樹町において学校関係者評価員は別に任命していない現状でございます。学校評議員がかねて評価にかかわっていると伺っております。3ページのトピックスでは部会組織を位置付けている例となっており、この組織が行動に出るときに各部会を作って、実際運営していくという事も、良い事だと書かれています、最後の4ページですが、熟議により目標を共有するという事で、一番重要な部分でもあると言われておりますが、運営協議会などで十分な話し合いを行い、方策・課題を共有する必要があるという事で、この熟議の運営に当たっては社会教育主事等が進行するなどして、協議会のメンバーの意見を十分吸い上げ、十分な熟慮・討議を導くという事が必要だと言われております。②の方では学校と地域が連携・協働した活動の推進という事で、実際にコミュニティスクールの協議した内容がアクション、行動に移されるための事例が書かれております。ここに書いてあることはできることから始めて徐々に活動内容を充実していくことが大切だという事で、いっぺんにやろうとしないで出来ることから進んでいく充実させていくという方向性が書いてあります。以上でコミュニティスクールの導入の概要の説明を終わらせていただきます。

#### ○町長

ただ今、コミュニティスクールについて板谷教育長からそして学校教育課の角倉課長から概要の説明又はコミュニティスクールとはどのような所も含めて、説明がありました。このあと、自由にこの関係で意見交換させていただきたいと思っております。

正直、私も今の説明では掴みきれない思いがたくさんあります。私から今の説明で感じたことをお話させていただくと、この内容で作り方の所に学校評議員と出てきましたが、評議員とコミュニティスクールの差はどこにあるかと最初に思っていて、評議員を発展させて学校運営協議会に格上げというか組織を再編してもという事もあったんですけども、それぞれ学校支援地域本部はボランティアやコーディネーターが学校の運営に関して関わっていく、学校評議員はそれぞれの学校に評議員を置いて学校に対して授業のあり方や行事を含めて学校運営を含めて、意見をだしていただくというような所があるんですけど、それをコミュニティスクール、学校運営協議会を組織してやっていくという所で、まだイメージが上手くつかみ切れないかなと持っております。是非、ざっくばらんに意見があれば出していただければと思います。

#### ○丹後委員

私も、正直言いまして、よくわからないなというのが感想で、前もつての資料もいただきました。そして教育長のわかりやすい説明、角倉課長の説明を受けて、それでもあまり、正直申しますとわからないというのが正直な感想です。今までも地域と学校との結びつきというのは色々な事業でたくさんあったのではないかなと思っております。単純な考えなんですけれども、今回何回も

資料を読んで、やっぱり一番思ったことは、なぜコミュニティスクールが必要なのか、一言明快な答えがあればわかりやすいかなと思ったんですけども。一番の目的は…という感じですね。

#### ○石山職務代理

新年度から田尾社会教育主事が着任されましたが、その辺が社会教育全般、生涯学習についてのリーダー役をやっていただけるのかなと思っておりまして、今ある小学校の学校評議員会、それは板谷教育長がやっていた時代の、中身は学校訪問の時に聞いておりますが、多く情報を知りえるのは大樹の根、あの中に書いてあります。ただ、人選のあたりは、現在のPTA会長が入っていないですよ。昔のまま動いてるんですよ。ですからやはり、これだけ時代が動いていますので子育てをやっている方、一人だけ鈴木委員が保護者という立場に入っていますので、教育委員にも入っていますけれども、それで学校の情報、彼女からいただいたりしますが、そういうところから行きますと、明確に評議員の方を指名していったらいいのかなと思います。あそこで議論しているのも議事録的な物より、教頭がメモしている程度で、本当は議事録を残さなければならないんですね。できる所ちょっとやっつけていけばいいのかなと、それが必要なと思います。評議員になる方の研修的な事も必要でしょうね。私たちが北広島に行きましたが、進んでいる所を見てしまうと、いきなりやれないような気がしますね。研究をしていく必要があるかと思えます。

#### ○山下委員

僕も教育委員という立場で、去年の11月1日からの動きの中で、知りえない事もたくさんあって、今回のコミュニティスクールについても丹後さんが言われた通り、なにか問題提起があってその問題を解決するための方法なのか、現場で困っている事があるのか、学校なり子ども達なりを支援する組織なのかという大枠ではなんとなくのイメージがあるんですが、そのような支援する組織は現在でも非常にあって、その組織と新しい組織のそれぞれの明確さが不明瞭になってしまふんじゃないかという懸念もあって、その辺の整理が自分の中でもできていないというのが今のところの感想です。

#### ○教育長

ありがとうございます。大樹町は色んな方面で頑張っています。すでに地域に開かれた学校づくりはかなり努力していて、なんで今さらという部分があるんだと思います。それをすっきりしたいなど、新たにやるのではなく、今までの物をもう少し明確に。私は学校現場出身者として、一生懸命協力、意識の高い家庭もあればそうではない家庭もある。子どもにとって一番大事なのは、お父さんお母さんの言う事と先生の言う事が同じ方向を向いてくれるとすごく自信をもって安心して頑張る事が出来るのですが、そういうところのベクトルを、健やかな子ども達の成長のために学校として家庭として地域として、どこを目指して頑張っていくのかを再確認していくの

が大きな狙いなのかなと思っています。学校は30年前に比べて相当多忙になっています。学校へ行くのは集団生活を通して人格形成をする所なので、集団のしつけやなんかは当然学校で行うのですが、個人的なしつけは当然家庭なんです。今、少子化なので幼稚園なんかもずいぶん保護者サービスというのか、託児所みたくいろいろリクエストを聞いて、その延長で小学校に入学してくるものですから、結構「えっ？」と思うところがあります。家庭の教育力、地域の教育力という部分をアップさせていくためには、学校だけに任せるのではなくて、今の子ども達はこんなところが弱いのではないか、そこで家庭として地域としてこんなところをテコ入れしようよと、そうする事によって次代を担う大樹の子ども達がこんなに心優しく豊かにたくましくなっていくというあたり明確にしていきたいと思います。

町長の言った学校評議員と区別がつかないのは事実。ただし評議員は、校長は学校運営方針を説明しますが、それを承認しなくても良いんです。承認されなかったら、学校運営協議会の場合はダメなんです。地域の承認を得ないと進んでいけない。おらが学校づくりという事で。今までは学校の責任者である校長は、今年こういうところに重点を置いてこんな学校を作っていくので協力してください、という事で意見を頂いて終わりだったんですが、もっとこうした方が良いのではないのとか、そういうところをクリアしなければダメという事と、今までは運営については意識ある人が教えてくれましたけども、まる三つめ、教職員の任用に関してはタブー視されてました。これを言えるようになるという事、実現するかどうかはわかりませんが、任命権者は道教委ですから。でも市町村教育委員会は内申権がありますから、それを使って地域に合った、いま地域に求められている教職員をリクエストしていくことがより進む形になるという事です。

この見本になっているのがイギリスの理事会だそうです。理事の承認がないと校長が経営できないんですね。その一歩手前を目指しているのかなと。学校ってクローズされていると言われていましたけども、色んな改革で開いてきています。それをより開いて目標を明確にして、ただリクエストするだけではなくできる部分はやっぺいこうという。人材活用なんかもそうですよね。65歳以上もすごく力を持っている方たくさんいますよね、そういう方に外部講師として来てもらうとか、地域住民が子どもの安全のために登下校の時に声かけをしてもらうとか、まだまだできることたくさんあるのではないかと。そしておらが学校を作っぺいこうと。そんな狙いがあるんじゃないかなと思います。

#### ○町長

もう少し教えてほしいのですが、たとえば、総合教育会議の役割・立位置、教育委員会の立位置、学校の立位置という、役割から見て、この運営協議会はどこに位置するのか。例えば、必須で基本方針を承認する、その中には教育課程の編成や組織編制、学校予算の編成まで承認がしているとすると、この段階で承認が得られない予算は議会にも出せないし提案できないのか、施設整備もこの段階で承認をもらわないと実施できないのか、そういう権限がある組織になっていくのかどうか、その辺りが見えない。立位置が見えないところがあります。また、こ

例えば協議会組織例があるけども、大樹では大樹小学校学校運営協議会、大樹中学校学校運営協議会という組織編成になっていくのか、大樹小中学校学校運営協議会とになっていくのか、その辺のあり方としてはどういう事が求められているのか疑問です。

#### ○教育長

まずは2点目の方から。市町村の規模や学校の実態によってという事で、許されている範囲は中学校区です。小学校は小学校、中学校は中学校で作って良いのですが、私はせっかく小中高一貫やっているのだから、この運営協議会の一つでやっていった方が、大樹にとっては好都合ではないかと思っています。予算編成についても相当詳しい方じゃないと、実態を鑑みて、過年度にどんな予算要求をしていて、どこまで実現されて、そういうところはあんまりすぐには実現できないのではないかと思います。だんだん権限はそっちに持って行くかもしれませんが最初はやっぱり設置者である大樹町、大樹町教委員会が主となって予算編成は学校の要望に応じていく。それを地域住民が認めていくというスタイルでやっていかないと時間はないと思います。

#### ○石山職務代理

いままで、予算の関係については総合会議で町長からきっちり資料を頂いてお話を伺っていますし、いわゆる行政区長会議もきっちりそういう資料もいただいていますし細かい所に関しても副町長が一つ一つの項目別にきちんと説明いただいているんですよ。ですから、しっかりなっているかなと思っておりまして。一回提案ですけれども、いろいろやってやっている事でここに属するものもたくさんありますのでそういうのをまとめる作業をやって、それ以外のものも何かないかステップアップした方が良いのかなと思っています。特に農家の方が、小学校の学校菜園を応援されていますよね、漁組はアキアジの稚魚の放流や、秋には捌いて料理の所までやっていただいていますし、森林組合関係では治山の森ですか、尾田の方にあります、あちらの方で体験学習的な事もやっていますし、そういうところをまだ何点かあるかと思うのでまとめていくとかね。そういう風にしたらいのではと思います。それから登下校の見守りの安全確保というのは、新行政区はやっているんですよ。できる限りやりましょうとの事で。全体のやっていることを取りまとめたりするのが良いのかなとかね。やっている所を一回取りまとめる作業をやったらよいかと思います。これね、評議員の人にやらせるってわけにはいかないんですよ。やっている事を言ってもらったらいのかな。

#### ○教育長

上士幌町がスタートしたんですね。そのメンバーを見ると、前学校評議員経験者からも出さなくなっていましたね。今、学習指導要領が大きく変わる時期で、そこで言われているのが社会に開かれた教育課程。先程町長が教育内容にもかかわるのかといったのはその部分かと思うんです。小中高の先生方、忙しい中「大樹学」というのを見出してくれています。それは石山委

員が言われているように整理しているんですね。大樹町の地場産業である酪農だとか漁業だとかそういう部分、やっぱり「知る」と。「体験を通して知る」と。栽培・飼育する事によって命というものがわかってきますし、食を通して大事なことがわかってきますし、漁師が木を植えるとか何のためとか。川、栄養分、土を守るためとかいろんなことを学べるいい機会なんです。それを少しでも、体系化していきましょうという事でやってくれています。最後は、住み良い町大樹ですよ。やっぱりみんなが顔見知りで、なんかあったかと表情見ながら声かけてくれたり、そうすると犯罪のない明るい町づくりになっていく。そのあたりも学校づくりを一つのツールとしてやっていただければと思います。

#### ○町長

色んな取組がすでになされて、色んな団体が学校運営とか子どもの教育にかかわっていて。それが全体で集約するというかコミュニケーションするというか、そのような形でこの団体が運営されるべきだと思うんだけど、設立のあり方で器を最初に作るのか、それとも小さな種をまいたのを実ったのをまとめて組織にするのか、上からするのか下からするのかすごく大事な事だと思っているんですね。これ、参考資料で伊達のを見ても、研修会の意見が後ろの方に出ていて、まさに懸念されることがいっぱいできているのだけど。教育委員会が熱心だけど学校現場が乗ってこないとか、学校と教育委員会熱心なんだけど先生たちがいまいちだったりとか、教育委員会が制度理解してないのにやっちゃってどうすんだいとか、その辺の理解力がないとせっかく組織を運営するために振り回されるのではないか。形式だけの事になってしまうのであれば意味がない。それだったら、実のある活動をやって機を熟していくっていうのもありかなと。どれがいいのか全く分からず話していますけども。その辺含めて、この協議会を作るにあたって目的意識を明確に持つておかないと、こういう理念というか思いだけでやっていくと、やっつけ仕事になっちゃうと何もないかなと。

#### ○丹後委員

コミュニティスクールが導入されて、一番良いのは今災害だとか台風だとか、地震とか、その時に避難訓練だとか一緒に訓練するとか、直面している問題に直接、すぐ効果があるというか、今までにない取組、災害に対する避難だとか、普段から。素晴らしいなと思って伊達の資料を読ませていただいたんですけども。

#### ○教育長

地域防災もすごく大事で、コミュニティがこのような活動をする事によってきずなが深まるというか。釜石の例も、とにかく高い所に行きなさいと中学生が老人に声かけながら引っ張っていく姿とか、すごくいいなと。去年8月の北海道に甚大な被害を与えた台風の時、避難所で頑張っている中学生の姿が評判になりました。非常食を配るとかそういう部分で、今の子どももまんざらではないんだという評価もありました。町長の言う通り、実りある活動にしていかなければ

いけないと。浮足立って振り回されてはいけないと、その通りだと思います。ただ、時というのも大事で。石山委員も言われたように、他の町村でも欲しがっている道派遣の社会教育主事が配置されたというのはかなりの戦力になるんです。もう一つ、伊達の人が言っていたのですが、コーディネーターというのは女性がいいですよ。お母さんというのは遠慮なく入っていけるとい事。学校評議員やっっている方いろいろないい意見いただいているんですが、たとえば民生児童委員されている松本さんとかね、ああいう方がコーディネーターやっってもらうといういろいろ結びつくかなと。あと、やっぱり形式が優先だったんですよ。学校支援地域本部というのは昔からあったんですが、全然やっってなかったですよ。ただ、予算もらってポスター作ってとかね。少しずつ、実際に関わろうとしてくれようというそのあたり見つめて、もう少し軽重付けて。先生方っていうのは新しいこと嫌いなんです。革新と言いながら一番保守なのは教員かなと思うんですが、そのためには今までのいらぬ贅肉をそぎ落として新しいものを入れると。足し算ばかりでやっっちゃうとアップアップしちゃうので、そのあたり先輩方のいい意見をもらって少しでもスリム化を図って機動性を発揮したらいいかなと思っています。

#### ○町長

いま教育長が最後に述べたのは、教職員の現場の声にもありましたよね。プラスになるのではなく、今までの事務量が整理されていくのが上手くいく必要な項目だと書いてありました。例えば協議会を設置したとして、運営主体は教育委員会？学校になるの？事務局はどこにおくの？

#### ○教育長

今までの学校評議員は学校主体だったんですよ。学校運営協議会になると教育委員会が事務局ですね。

#### ○角倉学校教育課長

どれくらいの業務量が出てくるのかは予想できないところがあります。実際、研修など行って生の声を聴かないと把握できないかなと、職員が勉強しないと取り組めないかなと思います。

#### ○石山職務代理

清水町とか他で甚大な被害があったところは、避難所の運営がうまくいかなかったと。やっぱり、この中に防災部会を立ち上げて、何でもかんでもやるのではなく防災に絞って避難所の運営をする、いろいろ企画してるんですね。大体は避難所は学校になるので、学校と緊密に体育館だけでいいのでしょうかとか、そういう風に一つ一つ急ぐところからやろうとか、そういうやり方をしていったらいいのかなと思っています。

#### ○町長

この組織に限らず、どんな組織もその目的通りに運営されれば素晴らしい事になるはず。ただ、目的にそって運営して、どんどん改善をしながらより良い方向に向けてくのはとてもマンパワーがいることになると思います。それをしっかりとやり遂げられる体制がないと。年に一回、とりあえず春先に協議会を開くというレベルだとなかなかね。そこをしっかりと取り組んでいける体制と理解が必要かなと思います。

目指す方向は間違っていないし、うまく機能すればオール大樹で学校以外にも地域のみんなとともに大樹の教育を、学校を運営していけるという大きな目的があるので、それは間違いない。それをやっていけるような体制づくりが必要かなと思います。

#### ○教育長

やはり理解者がすごく少ないんです。先週、高校野球の関係で4日間だけでしたが、大樹高校が参観週間という、これは結構学校は大変なんです、「この時間に参加日」ではなく、いつでもいいからこの4日間好きな所を見てくださいという、でも、全然保護者町民は行かないのが実態なんです。ただ預けたらそれっきりと。そこをどうやって変えていくのかというのがすごく大事ではないかと思っています。

#### ○町長

その学校運営協議会の設立に向けて、教育委員会としては今年度このように取り組んでいこうかなという思いはあるんでしょうか？

#### ○教育長

「ねばならない」は嫌なんです、かなりの所が取り組み始めているんですね。やっぱり人間としては真ん中くらいにはいたいなというのはあります。ただ、上からおろされてやるというのは疲れるので、先日の校長会議ではまず明確に、町長や教育委員の皆さんが言ったように「何のために」を明確に示してくださいと、そして話し合えよう。そこがクリアできないと負担感だけが増すのかなと思っています。

#### ○町長

まさにその通りだと思います。学校の中にもいろいろな PTA も含めて、いろいろな組織が、評議員も含めてありますので、そういうところからしっかり理解を求めて場を固めていくのが大切かなと思いますし。この協議会の委員をお願いして設置した時点で「そもそもこの協議会何ぞや」という話からスタートするようだとつらいかなと思います。これはいい組織だし今後のために必要だと思える場が必要かと思っています。早いに越したことはないのかもしれないけれど、そこは無いかなと僕は思います。もっと別な事があるような気がします。

まだまだ、このコミュニティスクール、学校運営協議会の関係については、事例も含めて教育委員会の方で、研修なり勉強なりしたものを教育委員会とか総合教育会議でも情報提供し

でもらって認識のレベルを上げていくのが必要かなと思います。

いずれ、これが大樹町の中でも設置がされてうまく機能する事によって、地域全体でも大樹の教育ができていけばそれが一番望ましいかなと思いますので、教育委員会のみんなも頑張ってください。

本日の協議事項でもコミュニティスクールという事で、協議の時間をまず第一番目に設けさせていただきました。この関係で、教育会議の場でご意見等があればお出しいただきたいと思っております。

(発言なし)

よろしいでしょうか。今後、まだまだ勉強していくという情報を得ながら進んでいくことが重要かなと思っております。

協議事項の2番目でその他の項目があります。こちらからは特段議題は用意してございませんが、総合教育会議でございますので教育に関する事であればこの場でお出しただければと思っております。

#### ○教育長

報告事項です。小中学生がいろいろ頑張っていて、全道大会に出場する子もいて、町の補助金も本当にありがたいと思っております。全道大会ではありませんが、先週の土曜日、十勝地区の少年の主張というのがありまして、大樹中学校の3年生の鈴木菜月さんがなんと優秀賞に選ばれたと。最優秀が陸別の子で、優秀賞が2人で、鹿追とわが大樹という事で頑張ってくれたなど。交通事故に自分がたまたまあって、それから命についていろいろ考えたという良い作文だったんです。どこかで紹介できる機会があればと思って、今、社会教育の方で考えています。

昭和58年から姉妹都市の関係で始まった相馬との親善交流の関係ですが、今年は受入という事です。たった3件だけなんですけど、全然決まりませんでした。和田主幹はじめ、本当に電話作戦で、つらいなと思って。そんな中で、ようやく昨年度行ってくれた杉山君が、中一なんですけども、いいですよと言ってきて、何とか見つかったという状況です。やはり時期的な部分、サッカーや野球の大会とか絡んで厳しいんです。そろそろ集団で受け入れるというSTEPの有効活用とかを検討する時期に来ているかなと思っております。昨日、高校生の受け入れ第2弾で京都教育大付属高校が来たんですが、いま、農家の方はすごく忙しいんですね。南十勝では足りなくて、幕別町や帯広市の農家の方にも手伝ってもらって、それでもなかなか都合がつかなくて、担当の清原係長の家泊めると。そんなやりくりもしていますので、本当にホームステイも大変だなと。今後いい知恵を貸してください。以上、報告でした。

#### ○町長

ありがとうございます。相馬の関係も受け入れ先、ホームステイ先がなかなかないとの事で、相馬側にはもっと期待ニーズがあるかもしれないです。うちと豊頃の受け入れのキャパの関係

で6人6人と言っていたので、今回。過去はもっと多く来ていたはずなんですよ。なので20人くらい来ていたことがあるんじゃないか、20人20人くらい。やはり教育長が言ったように、うちのホームステイが叶わなければ、中島の小学校・コミセンを使って、あそこはそういうための施設、活用も図られる施設なので、向こうが許せばいいかなと思います。少年の主張の関係では優秀賞との事で、たとえば広報紙に載せるというのは構わないよね？なので、優秀賞取った作文をそのまま町民の人にも教えてあげるとというのが、うちの広報の周知の方法としては一番広いかもしれない。是非そこはご検討いただきたいと思います。その他ありますか

#### ○丹後委員

先程、教育長の話にもありましたけども大樹高校を自由に見学してもいいという事で行ってまいりました。その時の話で、台湾に修学旅行に行くという話で予算を町長にたくさんつけていただいて校長先生がたいへん喜んでおりました。それで、わたし、とてもうれしいと思ったのが若い高校生くらいの時に海外行くという事、パスポートを持つという意味、空港で今現在の世の中を見る、たとえば今でしたらテロ対策で武装した人たちがいっぱい居たりとか、それを肌で感じるというのはとても社会の勉強になる事で、大変いいことだと思って。校長先生とお話しさせてもらった中で大変感謝しております、その予算をつけてもらった事で。もう一つ嬉しかったのは、手土産にふくろうの会、生涯学習センターでもよく展示しているフクロウの会の作品をお土産に持っていきたくて。校長先生自ら、道の駅でお買いになって2つ見せてくれたんですけど、フクロウの木とかついていて、流木で、そして大樹の町のコスピーがついています。そういうキットはフクロウの会の人に作ってもらって、あと高校生自身がそれを作って、それをお土産に持っていきたくて話していました。その話を聞いて、これは素晴らしい事で、フクロウの会の人たちにとってすごい励みになりますし、高校生にとっても良い事で、感動して話を聞いてきました。やっぱり予算をつけてもらうというのは大事な事なんだなと思って。ちょっと感動した話なんですけどね。

#### ○町長

今、丹後委員から高校行った時の関係で来年から大樹高校の生徒を台湾に送りたいとの事で取り組んできた経過も含めてのお話を頂きました、実はもう今年の1年生から台湾に送りたいとの事で議会の方とも相談したうえで、去年の生徒募集の段階から、「君たちは2年の修学旅行の時に台湾に行けるんだよ」とはつきりと言って、募集をしたという事で、正直悪い方に作用するとちょっと困るなと思っていただけですけどそこも含めて56人という事で入学者があったので、その部分は良かったかなと思っています。来年以降、大樹町は大樹高校の生徒を修学旅行に台湾に行かせる行かせると言っているんですが、実は国内旅行の部分はご負担いただくという事で、台湾に行く分の差額をうちが補てんするという事で全額持つわけではないんですけど、それでもそれなりの予算は伴う事だし、高校生を海外に、体験も含めて交流も含めて送ってあげるとするのは、みんなにとっても生徒にとっても大きなインパクトがあるし、良い経験にな

るかなと思っています。今年も8月に校長と私も台湾にご挨拶もあつて行くことにしたんですけども、高校生も5人選抜をしました。十何名の手上げがあつた中で、最後学校側は苦渋の選択で5人に絞つたという事で、その5人とは僕も面談しました。その時に、希望の動機として書いた作文を読ませてもらいました。一人一人が明確な、なぜ行きたいか、自分は将来こんな風に役立てるためにこの研修を望んでいるんだというところも、5人全員明確に書いたりしましたので、その部分は非常に頼もしいなと思っています。大樹町内に限らずかなりバラけていましたね。大樹2人であとはそれぞれだったかな。でも、ここに通ってくれている子ども達だという事で、町の予算で生かしてあげたいなと思っております。せつかくの大樹町が交流している台湾高雄市大樹区ですのでいろんなことを経験してもらえればなと思っております。

ほかにあご意見あれば、お出しを頂きたい。

#### ○教育長

大樹高校の授業参観してよかったなと思うことあつたので紹介させていただきます。先生方頑張っています。3年前に行ったときは寝てる子がいたんです。それは先生の授業が下手くそだからです。でも、みんな先生方頑張って寝させない授業やっていましたし、特別支援の、文部科学省の指定を受けてるんですね。だからユニバーサルデザインとかどの子にとってもわかる楽しい授業ということで、そうする事によってレベルが下がる心配はあつたんですけど、そうではないと。そういう発達障害の子は面白くなかつたらすぐ態度に表わすという事で、本当に授業はレベルアップしているなど嬉しかったのでお知らせいたします。

#### ○町長

ありがとうございます。昨年は私も金田校長に誘われて、特別参観に行ったんですけど、今回はどうしても日程が合わなくて行けなかつたので残念だなと思っております。来年度以降も実施されると思いますので、日程が合えばぜひ委員の皆さんもご参加いただければと思います。

なければ僕の方から1点だけお話をさせていただきたいと思います。大樹町は今、介護・福祉・高齢者・障がい者も含めて福祉計画を、来年度以降の福祉計画の策定に入っているんですが、その中で大きな課題として取り上げられているのが地域包括ケア。地域全体でこれから高齢化社会を見守っていくんだという体制を作ることが求められています。その地域という中には全体でという中には、僕は子ども達も含んでの地域包括ケアだと思っています。大樹町は認知症ヘルパーの研修制度を進めていまして、今現在500人を超したくらいかなと思っていますが、それを1000人まで上げたいという強い思いを持って、いろんなところで認知症ヘルパーの研修をやってくださいと話をしております。例えば商工会女性部ですとか森林組合、郵便局だったりとかいろんな組織で、老人クラブだったりとかやっていただいて500人まで来たところです。敬老会でこの話をすると「俺ら認知症なのに、受けていいのか」とおっしゃる高齢者の方いらっしゃいますが、それはもう「認知症とは何たるか」というのをみんなで学んで、ヘル

パー講習を受けたからすぐ手助けできるというわけではなくて、認知症というのはどういう事なんだよという共通の認識を持つということなので、そこは高齢者でも若者でもいいかなと思っています。たまに、道新とか新聞を見ると認知症ヘルパーのコマーシャル、取組の広告が載っているんですけど、府県はもう学校単位で、小学校単位でやっている所がたくさんあるようなので、ぜひ教育委員の立場または教育長の立場でも学校の方に働きかけを行っていただいて、小学校1年生2年生は無理かもしれないけど5年生6年生なら十分理解できる中身かなと思いますので、カリキュラムも含めて大変タイトな事だと思いますけど、それが地域の包括の力を挙げる一助に間違いなくならないかと思っておりますので、僕も積極的にやっておりますけども、各委員にもご協力いただいて、地域包括の力が上がるような取り組みをぜひこの場からもお願いをしますのでよろしくお願いいいたします。講習自体は小一時間で終わる講習ですし、講習受ければバッジとリストバンドがもれなく当たります。

他に、ご意見等があればお出してください。

(意見なし)

この場で常々申し上げておりますが、行政と教育が一堂に介して意見交換できるというのは、非常に町の立場としてもありがたいと思っております。教育の方で一番課題にある問題点とかいろんな現状とか含めて、お互いに共通認識を持てる場だと思っております。例年、もう一回は開催しておりますので、予算の策定に入る前に、新年度予算についての考え方等も含めて、また、反映すべき内容についてのご意見を何う形で年内にもう一回やりたいなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいいたします。

また、この会議の特徴として、必要な時は必要に応じて随時やっていくのが大事だと思いますので、緊急の場合も含めて開催が必要であれば、また改めてお願いをすることもあるかと思っておりますがよろしくお願いいいたします。

それでは、これで第1回目の大樹町総合教育会議を終了したいと思います。大変ありがとうございました。

午後5時15分 閉会

以上、会議の顛末を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成29年7月26日

委員 石山 新一

委員 山下 博